

トキ分散飼育検討対象地の取組の概要
～ 長岡市 ～

1. トキとの関わり

(1) 過去のトキの生息状況など

1890 年ごろ 新潟県古志郡で融雪後数羽来たとの記録がある。

※トキの文献（その3）安田健(1984)より

1900 年ごろ 長岡市濁沢地域でトキが見られたとの記録がある。

1922 年ごろ 「越後産鳥類目録」に記載・

※トキの文献（その3）安田健(1984)より

(参考) レッドデータブックにいがた (2001 新潟県)

トキ：野生絶滅

【選定理由】野生絶滅

【分布の状況】

かつて日本各地に分布していたが乱獲で激減した。大正末期には全滅したと考えられていたが、昭和に入り能登半島、佐渡島、隠岐島で少数の生息が確認された。佐渡では昭和初期に 100 羽前後生息していたらしいが、特別天然記念物に指定された昭和 27 年には 24 羽の確認に留まった。その後も減少を続け、昭和 56 年に野生に生息するものが 5 羽となった時点で、人工繁殖のため全てが捕獲され、野生絶滅の状態になった。現在、日本産は 1 羽が飼育下で生存するのみである。

【絶滅に至った原因】

古くから食用や羽毛の利用を目的にほかくされてきた。特に明治初期に銃猟により激減し、その後は開発により生息地が狭められたと考えられている。戦後は、農薬の使用により小動物が減少し、また、営巣に適したアカマツ、ミズナラ等の大木のある森林が改変されるなど生息環境はさらに悪化した。

(2) トキ保護の取り組み

- ・ 昭和 28 年 長岡市の悠久山にある科学博物館で開催された新潟県野鳥愛護会の会合において、初めて佐渡におけるトキの現状の報告と保護の訴えが行われ、当時、長岡市在住の新潟県野鳥愛護会会長が精力的に関係官庁、団体との折衝にあたった経緯がある。
- ・ 昭和 56 年 長岡市立博物館が市民へのトキ保護普及啓発のため講演会を開催。
- ・ 平成 13 年 長岡市立博物館が市民へのトキ保護普及啓発のため講演会を開催。
- ・ 平成 14 年 新潟県が長岡市でトキ・シンポジウムを開催。
- ・ 平成 17 年 佐渡島に最も近い市としてトキの保護増殖を進めることについて検討を開始。
- ・ 平成 18 年 「長岡市自然環境保護研究会」を設置。
- ・ 平成 20 年 「長岡市トキ保護増殖事業基本計画」策定

2. トキ保護増殖事業の検討

(1) 事業計画等の検討状況

・「長岡市トキ保護増殖事業基本計画」(平成20年2月15日)

(2) 事業の概要

①事業の目標

【目的】(抜粋)

長岡市は、佐渡におけるトキの飼育・繁殖及び野生復帰事業を支援し、トキの安定的存続に貢献するため、分散飼育に取り組む。

【意義】(抜粋)

- 佐渡と同一県内の市として、トキの分散飼育事業に取り組むことにより、佐渡におけるトキの飼育・繁殖事業及び野生復帰事業を支援・補完する。
- トキの飼育・繁殖事業を通して、自然環境学習の場を市民等に提供することにより、自然環境保護の普及啓発を積極的に進める。
- 二度にわたる震災や水害を受けた被災地として、トキの安定的な存続に貢献することで、全国からいただいた御支援や励ましに応え、復興へ向けて前に進んでいる市民を元気づける。また、棚田や休耕田等を利用したトキの餌となるドジョウなどの養殖など、自然と人間が共生する社会づくりを目指した活動を通して、地域の再生・復興を図る。

②事業の場所・施設計画

- 予定地：長岡市寺泊地域夏戸地区(旧夏戸小学校(現寺泊夏戸センター)敷地内)
- 敷地面積：約7,000平方メートル
- 施設計画
専門家等の意見を取り入れ、飼育ケージ、繁殖ケージ等を整備

③事業の実施方法

- 管理運営：長岡市
- スタッフ：7人程度(センター長1人、飼育員4人程度、獣医師*1人、事務職員1人)
*獣医師については、当面は新潟県から派遣を受け、その後は市が獣医師を委嘱。また、地元の動物病院の獣医師からも協力を受ける予定。

3. トキ近縁種等の飼育・繁殖実績(又は飼育・繁殖予定)等

(1) トキ近縁種飼育体制

- 飼育施設：長岡市悠久山小動物園内の専用飼育施設(整備済)
- 飼育体制：責任者1名、飼育員2名
なお、獣医師は地元の動物病院より協力を受ける。

(2) 主な経過及び予定

- 平成19年度 トキ近縁種飼育施設の設計に着手
- 平成20年度 トキ近縁種飼育施設整備
- 平成20年11月

クロトキ及びムギワラトキ3ペア6羽の飼育を開始。
(多摩動物公園から譲り受け)

今後、トキの飼育・繁殖技術の習得を図る。

(3) 近縁種飼育状況

クロトキ 4羽 (オス 2羽、メス 2羽)、ムギワラトキ 2羽 (オス 1羽、メス 1羽)

(4) 繁殖状況等

4. トキ保護に関する地域住民、NPO等の取組などの状況

- トキの分散飼育施設予定地に近い市立島田小学校では、平成19年度「和島はトキの里になりえるか」をテーマに総合学習を実施。佐渡でビオトープ作りを体験。平成20年1月の島田トキフォーラムでは、保護者や地域の方を招き、トキが来て変わる和島の農業などについて発表。
- 市内の農業高校では、平成20年から授業の一環として、ドジョウ養殖を開始。なお、長岡市は全国有数の錦鯉の養殖技術を有しており、これを活用しトキの餌(ドジョウ、モロコなど)の供給を考えていく方針。
- 長岡市では、財団法人山の暮らし再生機構(平成19年4月設立、長岡市出捐)等の支援により、トキ分散飼育にかかる地域住民などの活動をさらに広げる意向。

5. その他野生生物の保護、生態系、生物多様性の保全等に関する地域の取組の状況

- 長岡市環境基本方針の策定：自然環境の保全・再生を進め、市民が身近な自然と親しめる機会を増やし、豊かな自然と市民生活が調和するまちづくりを推進
- 長岡市条例による希少種保護(オジロワシ、ホトケドジョウ、ギフチョウ、雪割草、シラネアオイ、ハナマスなど)
- 生物多様性保護のための基礎的資料整備：科学博物館を中心に長年実施。
- 科学博物館のよる地学、植物、昆虫、動物部門の常設展示、自然観察会の開催等
- こどもエコクラブ：5クラブ(平成19年度)が自然観察会や水環境調査等を実施。
- 環境保全型農業の取り組み
平成19年度特別栽培米(化学肥料や農薬を5割減らして栽培した米)・有機栽培米の生産面積は、市内の水稻の作付面積の約1/4。